

がん5年生存率

JJ1SXA/池

8月8日付の新聞紙上に、「がん5年生存率66.1%」という記事が載っていた、副見出しには、「前立腺98%、大腸72%」の文字も…

非常に興味ある記事だ、私は、前立腺ガンで全摘手術をしてから10年以上になる、そして、今(8月7日)、大腸内視鏡検査を受けた、一寸前に健康診断を受けた時の便検査で、大腸ガンの疑いを指摘され、「災害医療センター」で受診したのだ、結果は15日の再診時に判明との事だ、対策・対応は結果判明後になる、よもや、何にも無しではないだろうが、軽い症状であることを祈る。

5年生存率とは、がんと診断された人が5年後に生存している割合で、がんの回復の一つの目安となる、がん以外の病気や事故などによる死亡の影響を除き調整した相対生存率を使っている。

	病期(ステージ)				全体 ※()内は3年 生存率
	1期	2期	3期	4期	
前立腺	100	100	100	62.2	98.6(99.2)
乳房	99.8	95.9	79.9	37.2	92.5(95.2)
子宮体	96.8	89.9	74.0	21.3	82.1(85.9)
子宮頸	95.3	78.7	61.4	25.2	75.3(79.6)
大腸	95.4	88.1	76.5	18.7	72.9(78.7)
胃	94.6	68.5	45.1	9.0	71.6(75.6)
膀胱	88.1	61.9	45.2	19.1	69.5(73.4)
食道	80.9	50.2	24.9	12.0	44.4(53.6)
肺	81.2	46.3	22.3	5.1	40.6(50.8)
肝臓	60.4	42.8	14.5	3.5	40.0(54.6)
膵臓	43.3	19.3	5.7	1.7	9.6(16.9)
全部位	—	—	—	—	66.1(72.1)

※病期はがんの進行度を示す指標。5年生存率は2009～10年、3年生存率は12年の診断例。—は非公表

国立がん研究センターは、2009～2010にがんと診断された患者の5年生存率が、全てのがんを合わせて、66.1%だったと、8日付で発表した。

5年生存率は、全国のがん診療連携拠点病院など277施設の約57万人を追跡して集計した。

部位別では、前立腺が98.6%で最も高く、乳房が92.5%、子宮体部が82.1%で続き、患者数が最も多い大腸は72.9%、早期発見・治療が難しい膵臓は9.6%だった、病期(ステージ)が進むほど、生存率が下がる傾向がある。

国立がん研究センターの、東尚弘がん登録センター長は「死亡率の減少につながるがん検診を定期的を受け、気になる症状が出たら、早めに病院へ行くことが大切」と話す。

● 2017年の死亡数が多い部位は順に

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	脾臓
女性	大腸	肺	脾臓	胃	乳房
男女計	肺	大腸	胃	脾臓	肝臓

私の前立腺がんは、早期発見だったから、多分ステージ1期か2期だったのでしょう、10年経ったが、前立腺がんが原因で死にそうに無い。

次の、大腸がんのことだが、まだ、がんと診断が下ったわけでは無いが、こちらも、早期発見になるでしょうから、大腸がんであっても、多分ステージは1期だろう、そうすると、5年生存率は、95.4%、簡単には死ぬことは無いだろうと多寡をくくっている、どうも、悪運強しで、地獄の閻魔さんとは簡単には仲良くできない。(笑)

一寸前に、厚労省から、平成30年簡易生命表が発表された、それによると、0歳男児の平均余命は、81.25となっていた、これは平均寿命とも同義のようだ、日本人も長生きになったものだ、人生100年時代も誇張では無くなってきたようだ、平均余命とは、ある年齢の人々があと何年生きられるかという期待値のことである。

ちなみに、私の余命は、この簡易生命表によれば、7.36歳と出ている、83プラス7.36は、90.36だ、おいおい冗談は止せと言いたくなる。

閻魔さんとは簡単には仲良くできない、と書いたが、万病のもとと言われる風邪などひいて、他の病気を発病し、あっという間に閻魔さんと握手することになるかも知れない、そうなれば良いが、発病の結果、要介護の身になるやも知れず、それは困る。

それより恐ろしいのは、「私は誰？家は何処？」…こんな事になりたくない、早く、閻魔さんと握手したいが、思うに任せずということになるのか？

…認知症は高齢になればなるほど、発症する危険は高まります、認知症は特別な人に起こる特別な出来事ではなく、歳をとれば誰にでも起こりうる、身近な病気と考えたほうがいいでしょうとの事。厚生労働省の2015年1月の発表によると、日本の認知症患者数は2012年時点で約462万人、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されています。

認知症の前段階とされる「軽度認知障害(MCI: mild cognitive impairment)」と推計される約400万人を合わせると、高齢者の約4人に1人が認知症あるいはその予備群ということになります。医療機関を受診して認知症と診断された人だけでもこの数字ですから、症状はすでに出ているのにまだ受診していない人も含めると、患者数はもっと増えていくと考えられます。今後高齢化がさらに進んでいくにつれ、認知症の患者数がさらに膨らんでいくことは確実です、厚労省が今回発表した推計によれば、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みです。…

以上「認知症フォーラム.com」より記事引用。(2019年8月9日記)

大腸ガンの疑いのその後→内視鏡検査の結果、ガンでは無く、良性のポリープということで、内視鏡手術で除去、その日1日入院で全て解決、まあ良かったのかな。(2019年8月21日記)